

教育コンサルタント 末永先生が語る センター試験廃止後はこうなる!

その②

現中学生や高校生にも影響が及ぶセンター試験廃止後について、本誌連載中の教育コンサルタント 末永先生にお話を伺いました。

【「高等学校基礎学力テスト(仮称)」について】

「高等学校基礎学力テスト(仮称)」は、今の中学校一年が高校二年になる2019年に、生徒全員を対象に実施される予定です。試験教科は必修科目(数学Ⅰやコミュニケーション英語Ⅰなど)を検討中で、高校で学んだ基礎学力を評価します。

回答方式は原則として、多肢選択方式で、記述式の導入も検討されています。中学校の「全国学力テストA問題」に相当し、進学・就職時に基礎学力の証明や把握方法として調査書に記入され、本人も評価を確認できるようになるようです。

進学時にどう利用されるかは現段階では確定していませんが、大学の一般入試では点数化せず、参考にする程度

になります。高校在学中に二十三回挑戦できる予定です。難易度は現在はまちまち。調査書では、大学側は正確な学力が測れないのです。例えば、超有名進学校での調査書の評定平均三・五と、学力の低い高校での三・五ではまるで意味が違うのです。が、現在の推薦入試やAO入試ではそれを区別していません。そのため、同じ大学に合格する生徒でも学力差が開くのです。高等学校基礎学力テストは高校一・二年時に受験可能で、中には現在のセンター試験に代わる「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」を利用しないケースも考えられます。

例えは、超有名進学校での調査書の評定平均三・五と、学力の低い高校での三・五ではまるで意味が違うのです。が、現在の推薦入試やAO入試ではそれを区別していません。そのため、同じ大学に合格する生徒でも学力差が開くのです。高等学校基礎学力テストは高校一・二年時に受験可能で、中には現在のセンター試験に代わる「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」を利用しないケースも考えられます。

大学入学希望者学力評価テスト(仮称)は、センター試験より難しいものとなりそうです。多肢選択方式や記述式の問題も導入され、教科別に区切った教科型試験に加え、教科・科目の枠を超えた「合科教科・科目型」や「総合型」の問題を組み合わせて出題されるようです。また将来、教科型試験は廃止の方針です。

この「合科教科・科目型」や「総合型」の試験というのは、どのような形で実施されるのでしょうか。「合科教科・科目型」の問題とは、例えば英語で問題が出題され英語で答える物理の問題とか、化学の知識と数学の関数や数列の解法を組み合わせたような問題などです。

大学入学希望者学力評価テスト(仮称)では、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する問題が作れないからです。話はそれますが、以前「総合理科」という科目ができた時も、きちんと教えることができたのは東大の先生くらいで、普通の高校教諭では教えられなかつたという話を聞きました。この「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」では「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する

【個別学力検査(2次試験)の変化について】

予定ですので、従来型の学力、知識を中心の学力では対応できなくなると予測されます。

これに伴い、文科省は大学の個別学力検査(2次試験)も変える方針です。学力は「大学入学希望者学力評価テスト」を中心に考え、二次試験では今までのようなペーパーテストではなく、各大学のアドミッション・ポリシー(自校の特色・教育理念に合う学生像を求める)に基づいた選抜方式を考えているようです。

大学ごとに、どんな人物像・素養を持つ生徒がふさわしいかを考え、面接や小論文で人間性を見極めるよう推奨。実践した大学には文科省からの補助金を増額するようです。

参考として、文科省が推奨している入試例を紹介します。17年からお茶の水女子大学が導入する新AO入試(新ファンボルト入試)です。

受験希望者には、「プレゼン」と称して高校一・三年の段階で大学の模擬授業を受けさせ、そのレポートを作成して発表。同様に理系は実験室でほかの受験生と共に実験を行

【外部外国語検定(大部分)の生徒にとっては外部英語検定の利用について】

予定ですので、従来型の学力、知識を中心の学力では対応できなくなると予測されます。

これに伴い、文科省は大学の個別学力検査(2次試験)も変える方針です。学力は「大学入学希望者学力評価テスト」を中心に考え、二次試験では今までのようなペーパーテストではなく、各大学のアドミッション・ポリシー(自校の特色・教育理念に合う学生像を求める)に基づいた選抜方式を考えているようです。

大学ごとに、どんな人物像・素養を持つ生徒がふさわしいかを考え、面接や小論文で人間性を見極めるよう推奨。実践した大学には文科省からの補助金を増額するようです。

参考として、文科省が推奨している入試例を紹介します。17年からお茶の水女子大学が導入する新AO入試(新ファンボルト入試)です。

受験希望者には、「プレゼン」と称して高校一・三年の段階で大学の模擬授業を受けさせ、そのレポートを作成して発表。同様に理系は実験室でほかの受験生と共に実験を行

い、そのレポートを作成、その結果を討論・発表します。プレゼンも含めて五日間の試験で、伸びしろのある生徒を選抜するようです。これは大学教育再生加速プランとして文科省に採択されました。

この試験には大学側からの反発も予想されます。理想的プランですが、倍率が高く受験生が数千人に及ぶ場合、現実的には困難でしょう。また、

入試問題を作成する能力がないとして、私立大学では六校に一校、全国では一〇〇程度の大学が予備校などに外注しています。たとえ補助金が増額されても、入試を面接や小論文に切り替えることは、容易ではないでしょう。将来、個別学力検査をどう変革するか、各大学から返答は出ています。

入試改革後の二次試験では、面接や小論文が増加することが予想されます。入試改革後は、面接や小論文が増加することが予想されますが、今後も発表を注視す

ります。

文科省は英語教育に力を入れており、18年には小学校の英語を正式に教科化する予定です。ほかにも、東大や京大などの難関大学の授業は英語での実施を検討中で、これは優秀な留学生を増加させるメソッドもあります。

この試験には大学側からの反発も予想されます。理想的プランですが、倍率が高く受験生が数千人に及ぶ場合、現実的には困難でしょう。また、入試問題を作成する能力がないとして、私立大学では六校に一校、全国では一〇〇程度の大学が予備校などに外注しています。たとえ補助金が増額されても、入試を面接や小論文に切り替えることは、容易ではないでしょう。将来、個別学力検査をどう変革するか、各大学から返答は出ています。

入試改革後は、面接や小論文が増加することが予想されます。

文科省は英語教育に力を入れており、18年には小学校の英語を正式に教科化する予定です。ほかにも、東大や京大などの難関大学の授業は英語での実施を検討中で、これは優秀な留学生を増加させるメソッドもあります。

この試験には大学側からの反発も予想されます。理想的プランですが、倍率が高く受験生が数千人に及ぶ場合、現実的には困難でしょう。また、入試問題を作成する能力がないとして、私立大学では六校に一校、全国では一〇〇程度の大学が予備校などに外注しています。たとえ補助金が増額されても、入試を面接や小論文に切り替えることは、容易ではないでしょう。将来、個別学力検査をどう変革するか、各大学から返答は出ています。

筑波大学は18年から、指定の外部検定試験を個別学力検査(2次試験)に代替すると発表しました。長崎大学の多文化社会学部では指定の外部検定試験の基準点を満たせば、センター試験の英語は満点扱いになります。関西学院大学のセンター利用入試は、外部検定試験(ほぼすべての検定試験に対応)の受験が出願条件です。

ここで利用される外部検定試験には英検・TOEIC・TOFLE・GTExなどがあり、利用対象は大学生により異なります。その中で話題の英語は不要になり、同大を目指す生徒は、TEAPを使います。

それはTEAPが年に三回も受験可

能で、いち早くTEAPに合格すれば、ほかの教科の勉強に時間を割けば、かかる時間になるからです。

これは現在の高校三年にも影響します。今年5月、立教大・青山学院・東京理科大・佛教大などでも、TEAPが利用可能になりました。大手予備校もTEAP利用の入試説明会を行うほどです。外部検定試験を利用した入試は、20年を待たず始めているのです。

英語検定を2020年実施の一次入試「大学入学希望者学力評価テスト」と代替する案もあります。現在の入試は、聞く・話す・読む・書くのうち、読む・書くが中心で、実用性の低い英語となっています。これまでほかの受験生と共に実験を行

ます。今年5月、立教大・青山学院・東京理科大・佛教大などでも、TEAPが利用可能になりました。大手予備校もTEAP利用の入試説明会を行うほどです。外部検定試験を利用した入試は、20年を待たず始めているのです。

また「総合型」とは、例えば長文や資料が二ページほど掲載され、そのものとなる見込みです。現行の一点刻み評価ではなく、五一〇段階程度のランク別評価(例えば、一〇一九一)を採用し、高校在学中に二十三回挑戦できる予定です。難易度は現在はまちまち。調査書では、大学側は正確な学力が測れないのです。

(仮称)はセンター試験に代わるものとなる見込みです。現行の一点刻

み評価ではなく、複数の教科で渡つて専門的な知識を持つ人でなければ、問題を公表する予定ですが、このように問題は作成も評価も非常に難しく、「合科教科・科目型」「総合型」の問題作成には苦戦しているようです。それは、複数の教科で渡つて専門的な知識を持つ人でなければ、問題が作れないからです。

話はそれますが、以前「総合理科」という科目ができた時も、きちんと教えることができたのは東大の先生くらいで、普通の高校教諭では教えられなかつたという話を聞きました。この「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」では「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する